

都市政策・地域経済ワークショップ1 第8回 議事録

【テーマ】 姫路市のベトナム人世帯に見る住まいの変化と共生

【講師】 久保園 洋一氏：福山市立大学都市経営学部 准教授

担当教員：永田 潤子准教授

【日時】 2025 年 5 月 30（金） 18:30～21:20

【場所】 大阪公立大学大学院 都市経営研究科 梅田サテライト 101 教室

【参加者】 都市政策・地域経済コース M1 学生 他

■ 講義概要

1970 年代後半以降インドシナ難民の定住促進センターが立地した兵庫県姫路市におけるベトナム人の世帯について、当初の難民としての来日に加え、その後の「結婚」や「呼び寄せ」もあわせ来日人口が増加し、滞在が長期化している状況下において、住まいの形態の変化、さらに住まい地における日本人との共生についてお話を伺った。

■ 講義内容

1. 講師プロフィール

■ 久保園 洋一氏

本研究科前身の創造都市研究科を修了後、県庁職員として主に建築関連業務に従事しながら研究を継続。

2025 年 4 月より 現職。

2. 講義内容

(1) 研究の背景と目的

日本では外国人の長期滞在が増加し共生が政策課題となっている。在留外国人数が中国人に次ぐベトナム人に注目し、住まいの変化と日本人との共生の実態を調査した。

(2) 調査の概要

a. 対象地域：姫路市のベトナム人集住エリア内のベトナム人世帯及び一部日本人世帯

b. 調査方法

- ・ A 調査：集住エリア内、ベトナム人世帯へのアンケート
- ・ B 調査：集住エリア内、市営住宅世帯へのアンケート（ベトナム人、日本人共）
- ・ C 調査：関係者への聞き取り

(3) 主な調査結果と分析

a. 就労と居住の状況

- ・ 約 8 割が就労中、工場勤務が多い。
- ・ 初期は公営住宅中心、長期滞在者は戸建て所有へ移行。
- ・ 最近の移住者は早期に自己所有住宅へ移行する傾向。

b. 公営住宅比較（日本人とベトナム人）

- ・ 一緒に地域活動をしたい日本人と、相談をしたいベトナム人という違いがみられる。
- ・ 相応の数の日本人があいさつを中心にベトナム人と関わりを持っていて、一部では多様な関わり方をする日本人が存在する。
- ・ 割合では多くないが、数としてみれば一定数存在するこれらの日本人が、住まい地でのベトナム人と日本人の共生に寄与していると考えられる。

c. 支援体制と地域対応

- ・ 行政支援によりベトナム語相談窓口が整備されており、役割は大きい。一方で、行政側の資金繰りなど継続性に課題があると思われる。
- ・ 言葉の問題は日本人との関係性だけでなく、ベトナム人世帯の中の世代間でも生じており、親子間のコミュニケーションに支障が生じるケースもあるようだ。
- ・ ベトナム人コミュニティ全体の繋がりは薄い。
- ・ 公営住宅では生活習慣の違いによるトラブルもあり、自治会と行政が連携して対応してきた経緯がある。

d. 今後の展望

- ・ 難民から、結婚や呼び寄せによる来日へと背景が変化。
- ・ 公営住宅等から戸建て住宅への移行後も周辺の限られた地域に定着し、小規模コミュニティが形成される傾向がみられる。
- ・ 住民による共用部の維持管理（自治管理）が求められる公営住宅で

は自治活動を通じた共生促進に結びつきやすいが、そうではない戸建て地域では関係性の構築の機会が生じにくい可能性がある。

3. 質疑応答

(1) 外国人受け入れ政策の現状と課題

【質問】

姫路市の外国人支援の取り組み同様に、日本全体として外国人受け入れ政策をどのように進めているのか。

【回答】

姫路市の取り組みは国の制度や助成金を活用したものが主であり、必要に応じて同様の取り組みが行われている場合もある。

(2) 地域のホスピタリティと外国人受け入れの方法

【質問】

外国人材を地域で受け入れる際に、地域としてどのようにホスピタリティを持って彼らを歓迎すればよいか、具体的な方法を知りたい。

高石市では羽衣国際大学に多くの留学生がいるが、地元に着していない。日本語学校がある大阪に住んでいるようだ。

【回答】

留学生が大阪に住む理由として、働き先や日本語学校の寮が整っている、あるいは同じ国の出身者同士が集まって住んでいるなど、合理的な理由がある可能性が高い。

話を姫路のベトナム人に戻すが、社会の変化として、通勤手段が自転車から車に変わったことで、勤務地に応じた転居が必要なくなり持ち家を選ぶことが可能になったとも言える。そうした変化が、外国人の定住や地域との関わり方にも影響を与えていると考えられる。

(3) 家庭内の言語断絶と文化的アイデンティティの両立

【質問】

親は日本語が分からず、子はベトナム語が分からないという言語断絶が家族のコミュニケーションにどのような影響を与えるか。また、そうした言語断絶が進む中で、その外国人は日本人との適合と文化的アイデンティティどの

ように両立させるべきか。

【回答】

ベトナム人の方々が日本社会になじみ、日本人のようになっていくプロセスがあると感じている。特に若い世代では、親世代の日本人社会に溶け込んでほしい（日本語を覚えて進学も含め安定した職に就いてほしい）という希望もあわせ、そうした傾向が強いのではないか。

一方でアイデンティティや家族間の繋がりからは、ベトナム語もちゃんと教えるべきだったというお話も聞いた。

(4) 住宅取得と雇用形態の関係

【質問】

戸建て住宅を取得するためには収入の安定が必要であり、ローンを組むには正社員であることが重要だと感じている。アンケートを通じて、正社員の人たちが一定数いらっしゃる事が分かり、給与の安定が生活の安定につながっているのではないか。

【回答】

おっしゃる通りと思う。一方で、聞き取り調査からは長年の貯金により住宅を購入しているケースが多いようだ。住宅価格が比較的こなれているエリアでもあり、ローンに頼らず購入しやすい状況があるのかもしれない。

(5) 外国人とのコミュニケーションの取り方

【質問】

勤務先の近所でもアジア系の外国人が増えており、コミュニケーションの機会を模索しているが、挨拶をしても反応がなく、対応を苦慮している。

【回答】

たとえ日本人同士でも、知らない人からの挨拶には反応しないことがあるため、外国人が反応しないのは自然なことかもしれない。なんらかの必要性に応じて関われるような場所や機会をつくることから始めるのではないか。

以上